



サポーター  
募集中

# やすぎ農業サポーター制度 皆さんの力が 農業を盛り上げます

サポーターの高齢化も深刻です

年齢	女 (人)	男 (人)	計 (人)
20～29	0	3	3
30～39	6	1	7
40～49	7	1	8
50～59	5	4	9
60～69	8	9	17
70～80	3	3	6
不明	9	8	17
計 (人)	38	29	67

やすぎ農業サポートセンターデータ

お互いが  
利用しやすい  
制度にしたい

サポーターの  
思い

この制度は、農業をしてみたい人や空いた時間に農業で働きたい人を農業サポーターとして農業者に紹介するものです。農業に関する知識と簡単な技

繁忙期の農業者の負担を減らし安定した栽培・出荷を支えるため、市、県、JAでは平成27年に「やすぎ農業サポーター制度」を導入しました。これまで、多くの人が農業者の支援に携わっていますが、まだ人手は不足している状況。制度の概要と現況に加えて、実際に利用する人の声を聞きました。

術は基礎研修と実践研修で学習。研修後にサポーターとして登録し農業者の元で働くという流れになります。

やすぎ農業サポートセンターの山根所長は「サポーターが雇用先で行う作業は、難しい技術が必要としない作業です。農業者も農業の基礎を身につけた人を雇うため、両方が安心して利用できる仕組みとなっています」と胸を張って話します。

サポーター数は、「現在、67人が登録していますが、子育てや他の仕事の合間に行っている人が大半。希望する勤務日数や時間も人によってばらつきがあります。そのため、人手を必要とする農業者すべてに対応するのは難しい状況です」と人数が足りていないことを嘆きます。一方、サポーターに対しての支援は「野菜・花卉<sup>かき</sup>・果樹など多くの研修を取りそろえています。また、賃金の面では、雇用



やすぎ農業サポートセンター山根所長

する際は最低賃金を下回らないようにと農業者に対して指導しています。農業サポーターに興味のある人はまずご相談ください」と募集を呼びかけています。

サポーターになりたい人は  
こちらへ

【問い合わせ先】

やすぎ農業サポートセンター  
(やすぎ担い手支援センター内)  
安来市穂日島町 303  
TEL: (0854) 26-4425  
月曜～金曜: 8:30～17:00



甘い香りの広がるイチゴハウスの中で慣れた手つきで収穫をする原さん（左）と及川さん

## 自分に合った働き方ができる

サポーターの思い

「家庭の事情に合わせて勤務時間を決められるところがこの制度の良さです」。こう話すのは、子育てをしながらサポーターとして働いている原純子さん（飯島町）。現在、池田憲司さん（赤江町）のイチゴ農場で収穫やパック詰め作業を行っています。

サポーターになったのは昨年11月。子どもの幼稚園で知り合った人に紹介されて始めたそうです。「子どもを幼稚園に送ってから迎えに行くまでの時間に

させてもらっています。今の時期は週に4〜5日、1日5時間程度働いています。池田さんは、少しずつ丁寧に教えてくださるので無理なく作業が出来ます。イチゴは毎日表情が違いますが、短い時間で効率的にできるような心がけています」と慣れた手つきでパック詰めをする原さん。この日は、午前中に収穫作業を行い、昼休憩を挟んで午後からパック詰めという内容。作業は14時30分ごろに終わりました。

「以前は事務所でパソコンに向かう仕事だったので、農業を通じて人とふれあうことができると楽しい」と笑顔で話します。

## 農作業にやりがい

サポーターの思い

原さんの紹介でサポーターになった及川聡美さん（飯島町）はイチゴの作業方法を、池田さんから習いました。農場によって作業方法は違ってくるため、その場で教えてもらえることは仕事をやる上で大切です。「安産イチゴのおいしさを改めて知ったのと同時に、農家さんの大変さを知りました。自分も少しでも農家さんの役に立てれば」と思いサポーターを始めました。サポーター制度で多くの人々が農家さんのお手伝いができるようになると思います。作業をする眼差しからは、強い思いが伝わってきました。

農業を体験して花卉の魅力を知ったと話すのは日野昌美さん（黒井田町）。トルコギキョウ栽培のサポーターとして活躍しています。「以前は農業と全く関係ない仕事をしており、一度栽培に携わってからはきれいなトルコギキョウに魅了されました。現在は仕事というより趣味のようになっています。お客さんに喜んで買ってもらえる花作りをしたい」と農業の魅力を話します。



## サポーターとのつながりを大切に

農業者の思い

イチゴ農家の池田憲司さんは制度が開始された平成27年からサポーターを雇用しています。

「昔のように近所で手伝ってくれる人がいなくなったのでサポーターさんに来てもらって大変助かっています。あまり負担にならないような作業方法にして長くいてもらえるようにしています。サポーターさんとのつながりは大事にしたい」とサポーターへの感謝を口にします。作業場では楽しそうな声が響き、池田さんが働きやすさを重視していることがわかります。

農業者を支えようと導入されたサポーター制度。人と人をつなぐ取り組みは、今後大きな役割を担っていきます。